



いい風呂の日イベントに参加



自衛隊東京地方協力本部大田出張所（所長 高橋2海尉）は、11月26日、いわゆる「いい風呂の日」に合わせ、大田区民ホール・アプリコ前において、第103補給大隊の支援を受け、野外入浴セット2型を活用した足湯展示を実施した。

当日は、晴天であったものの風が強く、体感温度が下がる寒さの中での開催となったが、そのような状況だからこそ、温かい足湯が来場者の関心を惹き、災害の際に役立てることが出来る自衛隊の装備を実感していただく良い機会となった。展示運営に当たっては、協力団体などからも装備品説明や来場者対応の支援を受け、円滑な実施につながった。

大田区民ホール・アプリコは、大規模災害時に蒲田駅周辺に滞留する帰宅困難者の待機場所に指定されており、必要に応じて野外入浴セット2型を運用する可能性がある。今回の展示は、平素から自衛隊の装備を地域住民に示すことにより、安心感の醸成及び自衛隊の支援能力に対する理解促進を図るものであったほか、大田区役所の協力により行政展示スペースが設けられ、防災政策及び情報提供方法も併せて紹介できた。さらに、当日は大田区長が会場を訪れ、装備品展示の意義及び自衛隊との連携についてお話しをされる場面もあり、行政・自衛隊・地域が一体となった防災力向上の取り組みとして注目を集めた。

大田出張所では、今回の展示を契機として、行政機関、関係部隊及び協力団体との連携をより一層強化し、災害時に実効性のある態勢の構築及び地域住民の防災意識向上に努めていく。

都立高等学校において「探究防災Ⅱ学習」を支援

自衛隊東京地方協力本部北地域事務所（所長 西尾3陸佐）は9月から11月の間、計4日間にわたり、板橋区内の都立高等学校において、同校2年生77名を対象とした「探究防災Ⅱ学習」を支援した。

同校は、全国で初めて「都市防災技術科」を設置した学校であり、1年生94名及び2年生77名を対象に、防災に関する実技体験を行う「探究的実習」に力を入れている。

北地域事務所は、「探求的実習」で、ロープワーク体験及び応急寝袋作成体験を支援し、参加した学生は、自身の知識向上のほか、他の生徒への説明及び技術展示を行う役割も担っていたことから、熱心に取り組む姿が見られた。

応急寝袋作成体験では「毛布1枚を使用」「1人で出入りが可能」「長時間の仮眠でも背中が痛くなくにくい」などの条件を設定し、各グループが工夫を凝らしながら試行錯誤を重ねた。作成後は、各グループがアピールポイントを発表し、担当広報官が実際に寝袋に入り、良好な点や改善を要する箇所などフィードバックを行った。

学生からは、「ロープワークの結び方を他人に説明するのが難しい」「思っていたより寝袋が温かい」「家にある物で寝袋を作ることができた」「驚いた」など、素直な感想が寄せられた。

北地域事務所は、今後も学校側との連携を深め、学校教育支援や各種説明会を通じて、自衛隊に対する理解の一層の深化に努めていく。

